

授業科目	スクールカウンセリング論				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	WE31417J		
開講年次	4	開講時期	後期	該当DP	DP2-1 DP2-2 DP3-2			
担当教員	水貝 洵子							
授業概要	本授業では、スクールカウンセリング事業の概要について解説するとともに、児童期・思春期を対象としたカウンセリングの在り方について理解を深めていくことを目標としている。また、学校臨床における有効な支援のための多職種連携の在り方についても理解を深めていく。なお、上記目標のために、本授業では実習や事例検討を行う予定である。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクールカウンセリング事業の概要について説明できる。 2. 児童期・思春期を対象としたカウンセリングの特徴や配慮点について説明でき、適切な援助について考え始める。 3. スクールカウンセラーと教師などの連携について説明でき、適切な援助に向けてひとつの援助チームとしての連携の在り方を考え始める。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	40						40	
思考・判断 (DP2-2)	30						30	
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)					30		30	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
スクールカウンセリングの概要、課題について説明ができる。児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解し、自身の今後の援助の在り方に活かすことができるようこれまでの体験を振り返ることができる。学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、説明することができる。				スクールカウンセリングの概要、課題について説明ができる。児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解できる。学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	テーマ:オリエンテーション 授業のオリエンテーションを行う。その後、スクールカウンセリングに関する諸概念やキーワードについて解説する。	講義	該当箇所の復習	30
2	テーマ:スクールカウンセリングに関する諸概念 スクールカウンセリングに関する諸概念やキーワードについて解説する。	講義	該当箇所の復習	60
3	テーマ:スクールカウンセリングにおける活動1 スクールカウンセリングにおける個別相談の活動を取り上げて解説を行う。	講義	該当箇所の復習	60
4	テーマ:スクールカウンセリングにおける活動2 スクールカウンセリングにおけるコンサルテーションの活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。	講義	該当箇所の復習	60
5	テーマ:スクールカウンセリングにおける活動3 スクールカウンセリングにおける心理教育の活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。	講義	該当箇所の復習	60
6	テーマ:スクールカウンセリングにおける活動4 スクールカウンセリングにおける危機介入の活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。	講義	該当箇所の復習	60
7	テーマ:スクールカウンセリングにおける活動5 スクールカウンセリングにおけるシステム構築の活動を取り上げて解説を行う。	講義	該当箇所の復習	60
8	テーマ:児童期・思春期を対象としたカウンセリング1 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。実習等を用いて体験的な理解を目指す。	講義 実習	該当箇所の復習	60
9	テーマ:児童期・思春期を対象としたカウンセリング2 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。実習等を用いて体験的な理解を目指す。	講義 実習	該当箇所の復習	60
10	テーマ:児童期・思春期を対象としたカウンセリング3 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。不登校などの事例を紹介し、カウンセリングアプローチについて理解を深めるとともに、不登校などスクールカウンセリングで出会う事例や症例に対する理解を深めていく。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
11	テーマ:児童期・思春期を対象としたカウンセリング4 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。不登校などの事例を紹介し、カウンセリングアプローチについて理解を深めるとともに、不登校などスクールカウンセリングで出会う事例や症例に対する理解を深めていく。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
12	テーマ:保護者との面接1 学校場面における保護者とのやりとりについて、ラポールの形成から連携に至るまでの配慮点等について解説を行う。	講義	該当箇所の復習	60
13	テーマ:保護者との面接2 学校場面における保護者とのやりとりについて、ラポールの形成から連携に至るまでの配慮点等について解説を行う。事例紹介や実習を交えながら理解を深めていく。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60

14	テーマ:多職種との連携 児童虐待の事例を紹介し、学校における児童虐待への支援について理解を深めるとともに、学校内外での多職種と連携のあり方や重要性について学習する。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	30
15	テーマ:まとめ これまでの授業内容の振り返りを行う。スクールカウンセリングの現状や課題について整理する。	講義	該当箇所の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	臨床心理学概論、発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ、カウンセリング論、カウンセリング論演習を履修していることが望ましい。			
テキスト	指定しない。 授業ではレジュメを配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『明解！スクールカウンセリング』 黒沢幸子・森俊夫・元永拓郎(著), 金子書房. 『指導援助に役立つ スクールカウンセリング ワークブック』 黒沢幸子(著), 金子書房. 『学校で活かす いじめへの解決志向プログラム一個と集団の力を引き出す実践方法』 スー・ヤング(著)黒沢幸子(監訳), 金子書房.			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	カウンセリングスキルを用いたやり取りなどの実習も実施する予定である。受講学生は、実習や事例検討のディスカッションに積極的に参加する姿勢が求められる。			

達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	試験の詳細については授業中に指示する。 レポート外の提出物は、授業後に提出する授業感想シートや実習で作成したワークシート等を指す。 授業感想シートやワークシートを通じて出された授業内容に関する質問や感想については、適宜授業内で取り上げ回答する。
--------------------------------	--